

平成20年 12月

なはのまちを考える講座 前期のまとめ

- ◆ 講座の詳しい内容は、毎回の講座で配布しました資料にありますので割愛させていただきます。講座でお配りした資料をご参照ください。

作成：NPO法人コミュニティおきなわ

もくじ

- I. 講座の概要 P 1
- II. 各講座の内容と受講生の感想 P 3
- III. 後期講座の予定 P 17
- IV. 参考資料 P 18

I. 講座の概要

1. 趣旨

那覇市では第三次総合計画において「協働」ということばが公に使われるようになり、さまざまな「協働」の取り組みがみられるようになった。しかし、「市民（個人、地縁団体、NPO、事業者）と行政が協働でまちづくりを推進する」ということは実際どういうことなのか、具体的にどんなルールが必要なのか、両者での十分な共通認識がされていないのが現状である。

そこで、市民と行政が「協働」や「自治」の意味や社会背景を共に学び合い、「協働のまちづくり」の意義とルールの是非について考えるために「**なはのまちを考える講座**」を開催する。

前期の講座では、先進事例や講話を通して「協働のまちづくり」とは何か、その意義や社会動向など基盤となることを学ぶ。

後期の講座では前期で学んだことを生かし、地域やNPOで取り組みたい活動テーマごとにプロジェクトチームを組み、そのプロジェクトが実現できるように計画を立て、フォーラムで発表する（プログラムの作成・提案）。地域でやってみたい活動テーマに、行政職員が加わって共に計画を立てることで講座終了後も継続・実施することを目標としている。また、実際のプログラムづくりを踏まえて、協働によるまちづくりのために「協働ルールが必要かどうか」も検討する。

2. 実施期間

(1) 前期の講座（終了日程）

第1回：8月31日（土）、第2回：9月13日（土）、第3回：9月27日（土）、
第4回：10月18日（土）、第5回：11月1日（土）

(2) 後期の講座（予定日程）

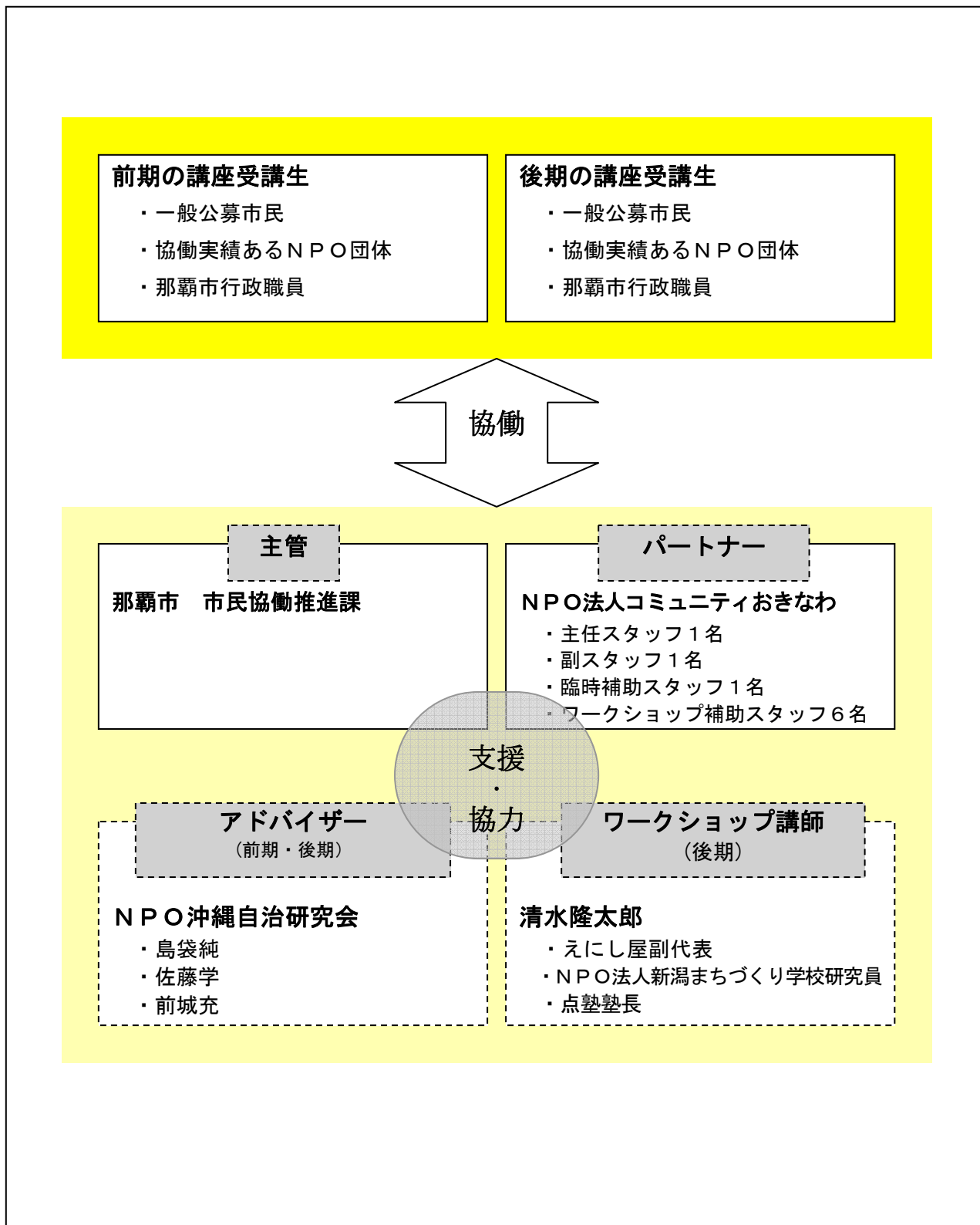
第1回：1月17日（土）、第二回：1月31日（土）、第3回：2月1日（日）、
第4回：2月14日（土）か2月28日（土）で調整中、第5回：3月14日（土）

3. 対象者

- ・那覇市のまちづくりに関心のある16歳以上の方
- ・自治・協働、保健・医療福祉、生活・環境、教育・文化、産業・情報、都市基盤、経営・財務に関連のある那覇市行政職員

※前期講座の参加者名簿は、参考資料P18～19をご確認ください。

4. 推進体制



Ⅱ. 各講座の内容と受講生の感想

第1回なはのまちを考える講座

と き：平成20年8月30日（土）14時～17時

テーマ：「那覇市の協働によるまちづくり」

ねらい：本講座の目的・スケジュール・那覇市第四次総合計画の政策体系などを確認する。また、受講者の参加した思いを語り合う！

参加者：41名（一般公募市民26名、行政職員15名）

成果！

- * 那覇市の第四次総合計画における「協働のまちづくり」の位置づけを全体で確認した。
- * 一般公募市民や行政職員の中から「協働」とは実際どういうことなのか、知りたい・学びたいという思いが浮かび上がってきた。



那覇市第四次総合計画の「協働のまちづくり」の位置づけを確認。



「マーケティングゲーム」で受講生の所属をみんなで把握。



グループに分かれて、受講の目的や那覇のまちについてフリートーク。



グループで話し合ったこと、気づいたことを発表し、全体で共有。

《参加者の感想》

那覇のまちづくりへの期待

- * 市内全域の道路が観光の街にふさわしくなるよう、草刈をしよう！
- * 祭りの最後の日には、観衆を含めた清掃の実現を！
- * バリアフリーの緑の街になってほしい。
- * おもろまちの高層ビルの問題がある。那覇市は協働の街を標榜している立場から協議会への参加を！

会場・時間設定への要望

- * 会議室は音響の関係で声が聞き取れなかった。スペースを有効に使って、話しやすい環境作りをしてほしい。
- * グループトークのとき、拍手の音が響きすぎる。
- * グループ毎に、話し合いのテーマが少し異なっていたように思う。
- * (ファシリテーターの方へ) 最初にゴールデンルールを示して頂きたいと思った。ファシリ参加者提案ゴールデンルールとして、否定しない・話しをさえぎらない・ちゃんと聞くというのを提案してほしい。
- * 日程の調整が難しい(土日が忙しい)。

講座に対する意見・感想

○いろいろな立場の人と話し、学べる「場」の大切さ

- * 立場や年齢の異なる市民のディスカッションはとても意義があり、貴重であると思う。
- * 職務命令ではなく、意識の高い行政職員の参加を求めるべきだと思う。
- * 行政の人たちともっと話したい。まちづくりには、商店街組合・商工振興課などの参加も必要ではないかと思う。
- * 講座の進行の仕方(一人一人の声を聞く方法)が参考になった。お互いを知る＝活動につながる第一歩だと思った。
- * 行政、企業、NPO、市民など違う視点から多くの意見を聞くことができた。
- * 初めて学生だけではない場で、いろいろな立場の人の意見や本音が聞けて良かった。
- * 専門的な言葉を砕いて、一般の方も積極的に話せる空間づくりが必要だと思った。
- * 地域を良くしたいという市民の思いを具体化する過程を本講座に期待している。

第2回なはのまちを考える講座

と き：平成20年9月13日（土）14時～17時

テーマ：「南風原町の協働のまちづくり事例」

ねらい：南風原町の事例から市民と行政の情報共有のあり方や自治体のあり方、住民主体のまちづくりの成果・課題を学ぶ。

参加者：44名（一般公募市民28名、行政職員16名）

講師：前城 充（南風原まちづくり未来塾、沖縄自治研究会メンバー）

大宜味 洋文（南風原まちづくり未来塾、南風原第一団地自治会長）

金城 朗子（南風原まちづくり未来塾）

藤原 政勝（南風原まちづくり未来塾、平和ガイドの会）

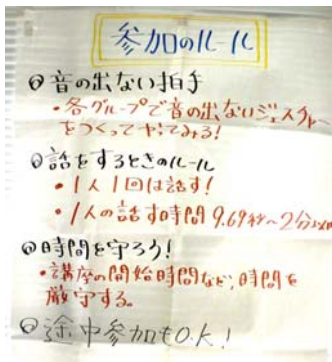
翁長 まゆみ（ ” ” ）

東濱 克紀（南風原まちづくり未来塾）

成果！

* 前回講座の要望・反省から、受講生が有意義に講座を受けられるよう、「参加のルール」をつくることが提案・合意されました。

* 南風原町の事例を通して、まちづくりには「情報交換」「交流」「人づくり・仲間づくり」が大切なんだ、という気づきや学びがあった。



この講座が有意義になるよう、受講生の提案で「参加のルール」を作った。



今日の講師は南風原まちづくり未来塾メンバー6名。



2グループに分かれ、南風原町の事例や講師の動機付けに耳を傾ける受講生。



質疑応答しながら、全体でさらに南風原町のまちづくりについて話しを深める。

《参加者の感想》

南風原町住民会議メンバーからの感想

- *活動の内容を深く、詳しく伝えるためにはもっと時間が必要。
- *自分たちの活動をふり返る良い機会になった。
- *那覇市住民の皆さんの意識の高さ、前向きな雰囲気にも勇気をもらった。お互いに発展することを心から願っている。できることからやっていきたい。
- *自治体の人たちと交流することは勉強になるし、とても楽しい。今後も続けていきたい。

南風原町住民会議メンバーに対する那覇市受講者の感想

○南風原町「未来塾」への意見

- *「未来塾」が行っている活動はその地域から選出された地域の議員も行っていないといけないのではないかと感じた。

○地域の人が生き生きしている＝地域の輪・地域の力が強くあること

- *南風原町で活動している方々の目がとてもキラキラしていた。活動に対する充実感・おもしろさが伝わった。
- *地域の輪・地域の力が強いということは、役所の人たちをも巻き込んでいくのだと思った。
- *学習すること・実践すること・声に出すこと・主体的であることが地域づくりには大切だと学んだ。

○感謝

- *那南風原町の情報を得ることで、見習うべきこと・参考になることは那覇市も実践していきたいと思った。素晴らしい交流・情報交換だった。ありがとう！

南風原町の事例を聞いての感想

①行政と市民の関係づくりの大切さ

- * 実践する場が市民を育てる。そのことに気づき、行政が学ぶ。まちづくりは実践の思想と協働の取り組みが大事だと実感した。
- * 「かっこいい大人」「ケンカできる関係」市民の一人として、本気になってまちづくりに参加してみようという気持ちが湧いた。
- * 南風原町の情熱に感動した。那覇市にもこんないい職員がいるのかなと思った。自分のまちではどのような活動をしているのか知りたくなった。

②まちづくりは人づくり・仲間づくり

- * 各地で足元をしっかりと見て、協力していくことの大切さを学んだ。
- * 地域活動をする上で、仲間を増やしていくことの難しさを日々感じていた。南風原町の皆さんの姿から勇気ももらった。
- * 活動をするために、ネットワークづくりがいかに大切かわかった。

③実践のために

- * みんなで計画をつくり、指標をもつ。
- * 協働のまちづくりは行政と住民の実践活動にある。

④行政職員について

- * 行政職員が熱意を持って、地域に出ることが大切。そのためにはスーパーアドバイザーや、信頼関係が必要。

⑤良い那覇づくり

- * 那覇市の良いところや個性を大切に、地域から実践して良い那覇をつくりたい。
- * 子育てや介護という生活に密着したところから地域のまちづくりをしたい。
- * 自治会に役立つことがたくさんあり、勉強になった。

講座に対する意見・感想

- * いつでも、誰でも参加しやすい市民参加の場づくりの実践を見た。
- * 質問・議論への時間配分が少なかった。時間配分・グループの大きさが課題だと思う。
- * 「理論と実践」という題目だったが、この場に集まった方々は生活強者の位置に立つ方々だと思う。生活弱者の声も取り入れ、「理論と実践」が、真に根を張ったものとして形づけられることを切望する。
- * 質問だけを問いかけるのではなく、感想を参加者にも聞いてほしい。そうすると発言しやすくなる。
- * 建設的な内容で、ためになった。この講座は社会教育の現場だと感じた。
- * コーディネーターに必要なのは寛容であることだと思った。

第3回なはのまちを考える講座

と き：平成 20 年 9 月 27 日（土）14 時～17 時

テーマ：「那覇市の NPO 活動事例」

ねらい：那覇市の NPO の活動事例や NPO 支援施策、NPO の意義や課題を学ぶ。

参加者：46 名（一般公募市民 30 名、行政職員 16 名）

講師：小阪 亘（那覇市 NPO 活動支援センター センター長）

宮道 喜一（那覇市 NPO 活動支援センター 事業推進スタッフ）

大城 喜江子（NPO 法人なはまちづくりネット 代表）

金城 利弘（NPO 法人なは街角ガイド 副会長）

宮良 弘子（アースの会 代表）

玉木 勉（NPO 法人みのりの会 代表）

照喜名 通（NPO 法人アンビシャス 事務局長）

糸数 貴子（NPO 法人おきなわ CAP センター 事務局長）

喜屋武 真次（NPO 法人エイブルサポートつばさ 代表）

成果！

*NPO 団体の活動事例を通して、下記のような気づきがあった。

- ・ NPO の役割の重要性
- ・ 「NPO と行政」の連携・協働の必要性
- ・ NPO 同志のつながりの必要性
- ・ お互いを知るための対話の大切さ
- ・ 出会いの場・学び合える場の必要性



今日の講師は那覇市を拠点に NPO 活動をされている 10 名の方々。



「県内の NPO の数はコンビニより少なく郵便局より多い」NPO の現状について分かりやすく説明してくれた小阪さん。



各 NPO の活動や課題など質疑応答しながら理解を深める。



各グループで話したこと、気づいたことを受講生が発表し、全体で共有。

《参加者の感想》

NPO関係者の感想

○他のNPOについて知ることができて良かった

- *自分たちの活動を見直すことができた。
- *運営困難な点など、悩みや話を聞いて良かった。また、たくさん運営のヒントを得ることができた。
- *自分たちの活動をまとめて説明することの難しさを知った。他団体の活動や質問を受けることで、周りを見渡すことができて良かった。
- *NPOの団体をもっと知りたい。沖縄県NPO大会開催を是非したい。

NPO活動を聞いての感想

①NPOで活動している人の熱意に感銘を受けた

- *NPOの皆さんは「こうしたい」という思いの強い人が集まって活動しているので、活気がある。大変そうな中にも楽しみながら活動しているのがわかった。
- *那覇市内で多種多様のNPOがあって、いろいろな活動を行っていることに感激した。

②NPOの活動について

- *NPO活動をしているところを実際に見てみたいと思った。
- *新しい発見がたくさんあった。自分にも何かできることがあると感じた。
- *何かの形で役に立ちたい。
- *NPOとは何か、理解できた気がする。
- *NPO法人の各団体が行政の課題を担って活動していることがわかった。今後も応援したいと思う。
- *NPO活動の必要性・課題を知ることができてためになった。

③NPO活動から得たヒントを実生活でも活かしていきたい

- *仕事へのヒントを得たような気がする。

「協働のまちづくり」の感想

①NPO と行政について

- * 「NPO のニーズ・強み・弱み」「行政のニーズ・強み・弱み」対話や情報交換によって、互いを活かす道が見つかると思った。
- * 行政と一般市民が互いの役割を尊重しながら NPO を活用すると良いと思った。
- * 市民の政治参加を促す場合、行政側はクレイマーの心配をする。何か目的が合つてのクレイムと、自分勝手なクレイムとでは協働の行方を大きく左右する。
- * 必要課題と要求課題が存在するのだと感じた。
- * 「一語一笑」「垣根を低く・・・」垣根の是非・垣根の有り様などについて考えていきたい。

②NPO 間のつながり

- * NPO 同士もつながっていないということがあった。ここに何か働きかけていくべき大切なポイントがあるように感じる。

③市民協働推進員が積極的に参加することの大切さ

- * 市民協働推進員が多数参加して NPO 活動の内容を聞く機会が持てて良かった。

行政への要望

- * NPO が資金（予算）に苦勞していることが分かった。
- * 市職員はもっと職員自身が個人として地域に参加してまちづくりをしてほしい。
- * 信頼関係を築いていきたい。行政の受付窓口の対応の解決策は？

講座に対する意見・感想

- * 進行の工夫がすごいと感心した。ワークショップの力を感じている。

第4回なはのまちを考える講座

と き：平成20年10月18日（土）14時～17時

テーマ：「自治と協働って何？」

～那覇市の自治会活動を通して～

内 容：那覇市の自治会活動の事例を通して、自治と協働のまちづくりの現状や課題を把握する。また、自治や協働の用語の意味・社会背景を知る。

参加者：37名（一般公募市民26名、行政職員11名）

講 師：糸数 武（若狭1丁目自治会 会長）
国吉 義子（安謝第一市営住宅自治会 会長）
瑞慶覧 長正（真地自治会 会長）
中野 武彦（三重城団地自治会 会長）
堀川 恭宏（首里金城町自治会 会長）
山川 新幸（久米自治会 会長）

アドバイザー：佐藤 学（沖縄自治研究会メンバー、沖縄国際大学法学部教授）

成果！

*自治会の活動事例を通して、下記のような気づきがあった。

- ・自治会の役割の重要性
- ・「自治会と行政」あるいは「自治会とNPO」の連携・協働の必要性
- ・みんなが参加できる「場」の必要性
- ・若い人の自治会離れから脱却するための工夫



今日の講師是那覇市の自治会長6名。



自治会長がそれぞれの自治会の自慢や自治会長になった動機などを自己紹介。



自治会長の話しから、各自治会の活動内容や困っていることなどを直接聞くことができた。



アドバイザー佐藤先生の自治の話しや受講生からの質疑から自治・協働についてさらに話しを深める。

《参加者の感想》

自治会長の感想

- *他の自治会のやり方や、集合住宅と民家のあり方など、いろいろ勉強になった。
- *今日は自治会活動の未来に一筋の光を感じることができた。
- *今回学んだことを今後の自治会活動に活かしたい。多くの人に自治会員になってほしい。
- *講座では、力みすぎたが、自治会員には常に会が安全・希望をもたせ運営している。

自治会活動を聞いての感想

①自治会長の思いや活動に感動

- *地域を楽しく安全に、暮らしやすくという素直な気持ちが大切だと思った。
- *やる気があり、それぞれの思いでがんばっている自治会長は素晴らしいと思った。

②活動内容に対して

- *各自治体の活動状況を知ることができた。自治会のないところにも設立できるようにしていきたい。
- *自治会は生活課題を解決するシステムだと思っている。「協働」という言葉は新しいが、今回の講座を聞いて、以前からあったものだと感じた。
- *自治会は那覇の自治の希望だ！
- *自治会は面倒というイメージを持ったまま育ったため、自分から自治会のことを知ろうとはしてこなかった。今回の講座で、自治会は生活上の問題を皆で解決するところだと知った。若者が自治会に入るためのきっかけが必要だと思う。

③自治会やフリーコミュニティーの意義・重要性がわかった

- *ゲートルコミュニティーの存在を知って、フリーコミュニティーの意義や重要性に気付いた。コミュニティーにはやはり自治会が必要である。行政の盛大な支援を期待している。
- *行政の一員として、また、自治会副会長として、大いに勉強になった。「垣根問題」「ゲーティングコミュニティー」と、レポート内容が増えた。市内の自治会活動に拍手を送りたい。

④課題

- *できることから始める自治活動がしたい。
- *地域に愛着・誇りを持てる仕組みや仕掛けが必要だと思う。
- *自治会活動に参加したくなる仕組みや働きかけが必要だ。

自治会のあり方について気付いたこと

- * 社会参加・貢献に対する自治会の役割に期待している。
- * 自治会と NPO の結びつきの可能性を感じた（例えば、那覇まち観光ガイドと、真地自治会・若狭一丁目自治会の地域で歩く観光ガイドのネットワークづくり）。

講座に対する意見・感想

- * 進行が早い。
- * （各局面での）割り当て時間が短いため、途中で終わった気がする。
- * もっと話を聞き、話し合う時間がほしかった。

第5回なはのまちを考える講座

と き：平成20年11月1日（土）14時～17時

テーマ：「これまでの講座をふり返ろう！」

～一人ひとりが学んだこと、感じたこととは？～

内 容：第1回～第4回の講座でどんなことを学んだのかふり返り、全体で共有する。またその中から、後期の講座につながる素材を発見する。

参加者：37名（一般公募市民26名、行政職員11名）

アドバイザー：佐藤 学（沖縄自治研究会メンバー、沖縄国際大学法学部教授）

成果！

*前期講座の最終回となる今回の講座では、受講者一人ひとりがこれまでの講座でどんなことを感じ、どんなことを学んだのか徹底的に語り合った。そして「協働のまちづくり」に質の高い感想やキーワードが挙がった。

*義務や強制ではなく自発的な思いや雰囲気から発生する自治が大事である一方、自治会を持続させるためには色んな立場の住民で決めたルールをみんなで守りながら暮らせるような自治会の在り方も必要である。



緊張感も手遊びを交えたゲームで一気にリラックスモードに。



前期最後のこの講座では、2人1組の「傾聴インタビュー」で講座でどんなことを学んだのか語り合う。



2組（4人）になり、「傾聴インタビュー」から出てきたキーワードをまとめる。



大きな模造紙に浮かび上がった8つのキーワードを全体で共有。

前期講座の最終回となる第5回目の講座では、参加者一人ひとりがこれまでの講座でどんなことを感じ、どんなことを学んだのか徹底的に語り合うワークショップ「傾聴インタビュー」を行った。下記は、その語り合いから出てきたキーワードと感想である。

○多様性を豊かさへ！

○個人情報保護法の問題

* 那覇にはいろんな自治会・NPO・企業・市民がいる。その多様性を豊かさへ結びつけたい。

* 自治会活動にとって障害である個人情報保護法の壁を乗り越え、協働のまちづくりを実現したい。

《参加者の感想》

- ・観光のまちにふさわしくなる様、道路管理をしよう。
- ・草が生い茂っている場所を、花でいっぱいになよう。
- ・初参加だった。今まで、那覇市は人口が多いため、まとまったものをつくるのが難しいと考えていた。このキーワードのようにその多様性を豊かさに変える方向で前向きに取り組んでいきたい。
- ・価値観の多様性が叫ばれている今日にピッタリのキーワードだと思う。

○地域の中でよりよい生活を営むための社会参加

* 「安心・安全なまちづくり」「よりよい生活を営む」ために、市民から自発的な思いを表現し、行動していこう！そのためには、コミュニケーションの場も大事。

《参加者の感想》

- ・協働のまちづくりは、さまざまな分野の方々の意見交換・調整・連体で行うことが大事だと思う。
- ・市民の自発的な地域づくりへの思いを集約できる場や、機会（きっかけ）が更に増えていくことを希望している。

○まちづくりは会議室で起きているんじゃない！現場で起きているんだ！

* NPO や自治会、南風原の活動事例から、まちづくりは「現場」が大事だということがわかった。そのために、このような講座（会議室）は大事。

* まちづくりは互いを認め合うことや信頼関係が大事。「ありがとう」の一言で続けられる。

《参加者の感想》

- ・役所と市民の関係を取り持つ作業が、協働には必要だと思う。まちづくりを進めていくために、お互いの情報を共有していきたい。
- ・このキーワードにある「現場」の一つとして、自治会が挙げられる。協働のまちづくりは、自治会への協力であると思う。

○“木の根”

～市は木であり、市民は木の根である～

* あらゆる立場・考え方・力量の異なる市民が本音で意見を出し合い、認め合い、「市は木であり、市民は木の根である」という認識を共有することができれば、おのずと木は素晴らしいものとなる。

《参加者の感想》

- ・市民が「木の根」であることに誇りを持てるようなまちづくりを目指したい。
- ・大きな思いや希望は、参加者みんなに共通していると感じた。
- ・行政と個人、一人一人の役割の集まりで社会が成り立っているということが、今日よくわかった。
- ・お互いの意見を出し合い、協働について勉強し、理解し合う体制が出来つつあると感じた。

○ “きっかけ”

* 色々なきっかけで、地域と関わり合いながら幸せな暮らしを築いていきたい。ボランティア精神の一つ一つをつなげていくことで、新しいまちづくりができるのだと思う。

《参加者の感想》

- きっかけがなければ、「知る」「つながる」「場づくり」「木の根になる」ということはできないと思う。
- この講座は、素晴らしい「きっかけ」だった!

○ “場づくり”

* 人と出会い、対話し、学び合う“場”。この機会が全てのスタートである。

《参加者の感想》

- 自治のあり方を考え、参加し続けることが大切だとわかった。
- 場づくりが全てのスタート! この場を基点に行動に移していけそう!
- 市民が自由に話し合える「場」、更に、行動できる「場」が必要である。そこから広げていきたい。

○ 知る・つながる・お互いの尊重と調和

* 「お互いを知り、つながるためにはどうすればいいのか」次のステップに進むためには、このような思いが大切である。

《参加者の感想》

- 人とのつながりの中で、知ること、認めること、感謝することを大切にしていきたい。
- いろいろな団体等の意見を丁寧に、しっかり集約していくことが大切だと感じている。
- まず、市民が何を考え、何を望んでいるのか知ることから始まると思う。

○ 市民がガイド まちあるき観光

* 市民が「まちあるき観光のガイド」になることで、地域を学び、地域の良さを知り、地域に誇りを持つ。また、まちあるき観光をすることで地域活性化や安心・安全なまちづくりにつながる。

《参加者の感想》

- このキーワードの真意は、「市が私たちに何をしてくれるか」ではなく、「市に対して私たちは何ができるか」だと思う。
- 自分のまちを知り、誇りを持つことはまちづくりの第一歩だと思う。このキーワードには具体的な目標が見えて、すぐに行動できそう!
- 行政のスリム化よりも、「自分も市政に参加できるという意識」でいきたい。

Ⅲ. 後期講座の予定

1. 後期講座の内容

前期の講座では、自治会やNPO活動などの事例を学び、そこから那覇市の自治や協働について「多様性」、「気づき」、「つながる」「場づくり」など重要なキーワードが出されました。さらにその学びを生かすため、前期の受講生から後期講座の題材となる活動テーマを募集し、それを5つの主要なテーマとしてまとめました。

後期の講座では、この5つの主要テーマを基に実際に計画を作ります。一緒に協働で計画をつくることで、協働のあり方や課題を検証します。

本講座から出た成果と提案は、3月に予定しているフォーラムにて多くの市民や行政職員にも周知します。そして、市民からの提案として市長に提出します。

2. 日程

回	日時	内容	ねらい
1	1/17 (土) 14時～17時	テーマ「 <u>市民ができることやりたいこと</u> 」 講師：清水隆太郎	・ 主要テーマを元に実際に計画をつくってみる。
2	1/31 (土) 14時～18時	テーマ「 <u>市民と行政との協働の実現に向けて</u> 」 講師：清水隆太郎	
3	2/1 (日) 14時～17時	テーマ「 <u>市民と行政との協働の実現に向けて</u> 」 講師：清水隆太郎	
4	2/14 (土) or 2/28 (土) 14時～17時	テーマ「 <u>協働のまちづくり</u> 」課題のまとめ 進行：コミュニティおきなわ	
5	3/14 (土) 15時～18時	フォーラム 「市民が提案する『協働』のまちづくり～平成20年度「なはのまちを考える講座」の成果を踏まえて～」	

3. 場所

- ・ 第1回～第4回講座： 那覇市教育委員会 3F大ホール
- ・ フォーラム： 那覇市ぶんかテンプス館 4F大ホール

IV. 参考資料

前期講座の受講生名簿

①一般公募市民（延べ 56 人）

1	赤嶺 栄造
2	伊川 智子
3	伊敷 勝次
4	糸数 武
5	上江洲 由紀子
6	上原 ひとみ
7	上原 ひろみ
8	大城 俊雄
9	大城 喜江子
10	大濱 正義
11	恩納 まりこ
12	嘉数 学
13	我謝 春菜
14	金城 新明
15	金城 末子
16	金城 節子
17	金城 辰雄
18	金城 利弘
19	金城 秀子
20	金城 優華
21	国吉 義子
22	慶佐次 興和
23	嶋田 照子
24	島袋 貴美子
25	下地 朝一郎
26	新開 育恵
27	新里 哲佳
28	瑞慶覧 長正
29	平良 幸夫
30	高野 大秋

31	竹内 美生
32	田端 温代
33	知念 絵理子
34	知念 希和子
35	當間 重宏
36	中野 武彦
37	仲村渠 恵美子
38	中村 司
39	饒波 正博
40	原国 政法
41	比嘉 浩一
42	比嘉 満
43	堀川 恭宏
44	前泊 美紀
45	真喜志 康雅
46	又吉 孝子
47	三木 雅貴
48	南 信乃介
49	宮城 幸子
50	宮城 由紀
51	宮地 順子
52	山川 新幸
53	山入端 さやか
54	屋良 栄作
55	與那嶺 新
56	饒平名 真樹

②那覇市行政職員（延べ 22 人）

	名前	所属
1	長嶺 達也	平和交流・男女参画室
2	波平 治	人事課
3	上地 英之	経営企画室
4	具志堅 政人	〃
5	新里 真和	真和志支所
6	関口 博之	文化振興課
7	渡真利 治	環境政策課
8	森 隆広	クリーン推進課
9	山口 智恵美	健康推進課
10	新垣 浩	特定健診課
11	山城 いと子	子育て応援課
12	屋比久 尚也	都市計画課
13	仲真 良静	道路管理室
14	宮城 文雄	公園管理室
15	上原 正己	予防課
16	宮内 勇人	生涯学習課
17	我那覇 生男	市民スポーツ課
18	徳嶺 克志	文化財課
19	岸本 修	学校教育課
20	上原 辰男	企画経営課
21	新里 勉	市民協働推進課
22	田島 壽博	〃